

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373300652		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム百楽苑 1ユニット		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町南寺戸12-1		
自己評価作成日	平成25年10月28日	評価結果市町村受理日	平成26年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成26年12月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

蒲郡市東部にある三谷海岸を眼下に見渡す山の中腹に位置し、蒲郡祭りの花火大会、竹島水族館、蒲郡市博物館、三谷祭りを始め、地域の行事に参加したり、近所の保育園や公園への散歩や、近所のスーパーへの買い物等を通じ、地域の中で生活することを大切にしています。また、保育園や小中学校の行事や資源回収等を通じ、交流や協力を行っています。認知症についての理解を深めていただくため、包括支援センターと協働で認知症サポーター講座を実施しました。また、家族交流会で「本当は怖い骨粗鬆症」をテーマにした講話とおやつ作りを行い、楽しみながら認知症予防を学ぶ予定です。運動不足にならないよう体力づくりのためラジオ体操やロコモーショントレーニングを行ったり、近所の保育園へ散歩をしたり、歩いて受診や買い物に出かけるなど、その方の体力に応じた支援に努めています。「共に思いやる心」を運営理念とし、利用者様と職員、利用者様とおしがお互いに理解し、協力しあい、役割をもって共に生活することを心がけて支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「共に思いやる心」の理念を職員全員が共有し、共通意識を持って利用者一人ひとりが当たり前の生活が過ごせるように個々に合わせた支援が出来ることを目指している。ホームは一階建ての平屋で、事務所を挟んでユニットが二つ有るので職員はユニットの枠にとらわれず利用者を把握し、協力し合っている。利用者も自由に行き来して交流を深めている。今後は職員同士の信頼関係がさらに深められるように、お互いの良いところを見つけて何か一言書いて「ありがとうの木」に貼っている。そうすることによりお互いを理解し、意志疎通が出来て、お互いを理解したチーム力になることで、サービスの質の向上に取り組みでいきたいと考えている。また地域との交流が更なる広がりになることを期待されるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体ミーティングで運営理念を実現するための目標設定を行い共有した。また、施設内の様々な場所に理念を掲示し業務に反映できるようにしている。	「共に生きる」を理念に職員それぞれが状況を把握し役割分担をして、また協力しながら思いを汲み取り実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、また近隣常民との挨拶などを通して交流を図っている。	近所の保育園の運動会やお遊戯会に参加したり、名古屋場所の時には力士との交流があるなど、地域の行事に参加している。また、回覧板などを通して地域の情報を得ている。	地域の方が気軽にホームへ足を運べるような取り組みをしていくと共に、今後とも地域との良好な関係作りに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族交流会にて介護劇を行うなどして認知症の周知を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の代表者・市役所の職員から頂いた意見を行事や日常活動に活かせるよう心がけている。	会議には、利用者や家族、福祉関係者、民生委員などが集まり積極的に意見交換や情報交換がされている。また、認知症サポーターの企画も行なっている。議題は職員間で周知しサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護更新、事業所変更届等の際に情報交換を行っている。また、事故報告書を届け出る際に、適切な助言を得ている。	運営推進会議などで情報交換をしたり、訪問時に相談をしたりしている。また、介護相談員の受け入れをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の施錠は行うが、帰宅願望に対しては、その方の興味があることで気を紛らわせたり、散歩やドライブにお連れしたり」気分転換を行っている。また日常業務で拘束に繋がる恐れのあるケアを無くすよう職員間で常に話しあうようにしている。	身体拘束だけでなくスピーチロックなど拘束に関する研修を実施しており、気付いたことなどはミーティングで話し合い拘束をしないケアをしている。また、職員同士が注意し合い常に考えてケアに当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけではなく、言葉での虐待が起こらないよう職員間で注意し、適切な言葉がけをするよう心がけている。虐待に関しては、虐待に関する研修を通じ職員の意識を高め自分たちの介護の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	蒲郡社協で実施予定の成年後見センターの資料をもとに、全体ミーティングで学ぶ機会を設けた。また、実際に利用されている利用者様の後見人と定期的に情報交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の問合せ時に費用について説明を行い、入居時には重要事項説明書に基づき入居、入居時のサービス等について説明し、不明なこと確認したいこと等について丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人の面会時及び家族交流会や行事等での意見交換、介護計画策定時の説明等を通じ、希望を反映させている。	職員の担当制を取っており、担当者が積極的に利用者・家族と情報交換しサービスに反映できるよう働きかけている。また、交流会や面会時に意見交換を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやフロア会議を定期的に行い意見交換している。	『ありがとうの木』を玄関に掲示し、職員同士の連携や気付きに役立てている。また、管理者は、その時々で職員とコミュニケーションを取ったり、会議などで意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の勤務評定時に意見交換を行い、努力目標の設定及び具体的な実施事項を決定し、各自の意欲向上に沿った支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の勧めがあり、学ぶ機会が与えられている。また、法人でリーダー育成を図っており資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会東三河支部に参加し、情報交換及び研修に参加したり、合同レクに入居者様とともに参加し、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい利用者様には、丁寧に関わりの時間を増やし、分からないことを気安く聞いていただけるよう接している。また、ご自分の希望や興味があること等、会話の中から引き出し行っていたことで、他利用者様と関わりが持てるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	疑問や不安な事を伺い、過去の例を紹介して不安を和らげられるようお話をさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際に、ご希望をうかがう際、施設でできることをお話し、他事業所の方が望ましい場合は、他サービスの利用についてご説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることは日常の生活の中で行っていたりしている。また、見守りや助言等でできる範囲での家事を一緒に行い、一緒に生活しているという状況を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も良好な家族関係を続ける事ができるよう、近況報告や情報交換を行い、要望を伺い一緒に支えていく関係作りに努めている。また、行事参加の依頼や面会しやすい雰囲気作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店への買い物を通して地域関係の維持を図っている。	趣味が継続してできるように支援したり、使っていた化粧品を今まで通り使えるように買い物支援をしたりしている。また、友人の訪問など馴染みの関係が途切れない工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流が図れるよう座席の工夫をしたり、居室に閉じこもりがちにならないよう、体操やレク、家事等への参加の呼びかけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり退居された方のお見舞いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と話をし希望に沿うよう努力をしております、本人本位で検討するが、実施については希望通りにできないことがある。	声掛けの方法を工夫したり、気軽に話せる環境を整え個別に対応できるように試行錯誤しながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録やご家族様の訪問時に生活暦を伺い、今までの趣味や経験を活かすことができるように支援を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの希望の過ごし方について把握するよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族様の思いを伺ったり、普段の会話でご本人の希望を把握し、担当者会で意見交換をし、介護計画に反映させている。	3か月に1回モニタリングを行い、サービス内容を見直している。また、家族に意見を求めるために手紙を送ったり、面会時に相談したりして利用者の意向に添うよう計画作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、職員間で共有し、変化の状態に応じた対応をしている。また、フロアミーティングや担当者会で対応を協議し、全体ミーティングで実践の検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に取り組み無し		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや餅投げ、保育園児との交流会、小中学校の廃品回収の協力を行い、地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の病院を希望されている方には、送迎介助を行っている。また、専門医の診察を必要とされている方の受診介助も行なっている。	フロア毎に月一回づつかかりつけ医の往診がある。かかりつけ医から専門医の受診が必要とされた場合、紹介状を出して貰って付き添いは基本的に職員だが、家族の協力も得られている。かかりつけ医と専門医との連携も職員を通して出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状況の変化を看護職に伝え、助言を仰いだり応急処置や受診の要否の相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には面会を行い、病院スタッフとの情報交換を行い、退院後の施設での生活に支障が生じないよう連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には施設からは状態や介護の内容について説明し、協力医からは病状説明や処置の内容について説明していただいている。また、ご家族様の精神的な共感を行うと共に衣食住全てで安らぎを提供できるように職員間で統一したケアを行うよう心がけている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意書を貰っている。利用者に状態変化があり、重度化してきた場合、かかりつけ医から家族に説明がおこなわれ、家族、医師、職員で連携し終末期に向けた支援が出来るように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修への参加、また看護師に観察のポイント・急変時の対応を聞くなどして急変や体調不良に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回以上(地震対応、夜間想定)実施し、対応力の養成を図っている。地域との協働については今後の課題である。	避難訓練は昼夜想定で年二回以上実施されている。消防署立ち合いの際は訓練の様子を見てもらったり、水消火器の練習等指導を受けている。備蓄も水、紙類、食料は三日分用意されている。	避難訓練に近所の人への参加の呼びかけを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修に参加したいと学んでいる。また、定期的実施している言葉遣いチェックで振り返りを行っている。トイレ誘導の際は、他入居者様へ気付かれないよう配慮をしている。	利用者を人生の先輩として尊敬しており、声の大きさ、言葉遣いには気を付けている。居室に入る際はノックしたり、トイレ誘導等さり気なく声掛けを行っている。管理者は職員に対して気が付いた時、随時指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく希望を伺い自己決定していただいている。困難な方には、選択肢を提示し選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや散歩、家事等への参加は、ご本人の意向を伺って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、助言をしながらご本人に選択していただいている。また、化粧品を使用されている方の買い物を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けでトラブルが多いため実施していない。おやつ作りでは希望に応じ行っている。下膳ができる方には運んでいただいたり、食器洗いやテーブル拭き等、その方に応じた参加をされている。	食事はご飯と汁物以外は配食となっている。職員は利用者の力量にあった食器洗い、テーブル拭き等手伝って貰っている。利用者の好みを給食会議で話し合い、献立に取り入れている。外食や手作りおやつのお汁粉、お団子、ホットケーキ等利用者の楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が極端に少ない方は医師に相談し、エンシュアキットを処方していただいている。また、ご自分で召し上がっていただくため、食事形態を変えてお出ししている。むせが気になり水分を控えがちな方には、ゼリーにして召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方には洗浄液につける介助をしている。また、自分の歯がある方は、食後の歯磨きの声がけをし、必要な方には仕上げの介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が可能な方は、手引きや車椅子でトイレ誘導している。排泄の状況を把握すると共に、本人に合った排泄を行うことができるよう定時誘導及びご自分で行こうとされている際の支援をしている。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、チェックシートにとらわれずトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。夜は声を掛けたり、ポータブルを使用する人、睡眠を優先する人など利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心がけ摂取量のチェックを行っている。また、適度な運動ができるよう、テレビ体操や散歩等、入浴時の腹部マッサージを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望がある方には、日時の相談をして入浴いただいている。入浴の間隔とご本人の体力を考慮し、声がけを行っている。入浴剤を適宜利用し、声がけの際に入りたい気持ちを持っていただいている。	入浴の時間や回数は利用者の体力や希望に応じられるように支援し、週二回は最低入浴している。入浴拒否の人には上手に工夫して声掛けを行って、誘導している。入浴剤、柚子等入れて楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望により休息していただいている。昼夜逆転傾向の方については、無理のない程度に昼間活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬のファイルで常に確認できる環境を整えている。服薬間違いをしないよう、薬ボックスにセットし、その方の能力に応じ、手渡しや服薬介助により確実な服用を行っている。便通を良くする薬を服用されている方は、排便の状態を確認し服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味活動について、興味・関心があるものを行っていただいている。また、生活歴の中で実施していたが、行わなくなってしまうことにも興味をもち参加できるよう働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望がある場合は、職員と相談し日時を決め支援している。また、ご家族様等とともに外出できるよう支援している。	日常的に外出する機会を設け、天気の良い日は近所や海岸迄散歩に出掛けている。花見、紅葉狩り、菖蒲園等への外出行事を月一回行っている。また、個別支援として床屋、買い物、墓参り等の外出支援も行っている。家族と外食、ドライブ、自宅等に出掛けている人もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族様で所持金を決め、買い物の際に使用する場合の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家人への電話ができるよう支援をしている。また、携帯電話を持参し使用される方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下等に入居者様の作品等を飾っている。空調は、利用者様に伺いながら調整している。清潔を保てるよう掃除をおこなっている。	リビングは広々とし、日当たりが良く利用者はゆっくりと椅子で寛いでいる。畳スペースでは横になって休めるようになっている。共用空間は利用者と一緒に作った季節感あふれる作品が数多く飾られ温かい雰囲気を感じられる。脱衣所は温度差にならない配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳スペースに寝転んだり、ご自分の席でテレビをご覧になったり、お話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持参していただいている。居室内は小物や趣味のもので飾りつけを楽しまれている。	クローゼットが大きいのでスッキリとした部屋が多いが、テレビ、位牌、写真、人形、帽子、チェスト等馴染みの物が持ち込まれ、利用者の居心地の良さが窺える。部屋の温度は事務室で管理されているので安全である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などの場所を見やすい文字で掲示を行っている。また、入居者様どおしで教えあっている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2373300652
事業所名	グループホーム百楽苑

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	近所の保育園の運動会やお遊戯会に参加したり、名古屋場所の時には力士との交流があり利用者の楽しみの一つになっている。また、花火大会の見学など季節行事に積極的に参加している。地域の行事やイベントなどの情報を回覧板を通して地域と共有している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	2ヶ月に1回開催している。利用者・家族、福祉関係者、民生委員などが参加し活発に意見交換がなされている。認知症サポーターの企画をして地域の方に認知症に対する理解を求めるなど今後を活かした取組みもされている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	運営推進会議で積極的に意見交換をしたり、介護認定更新時などで役所を訪れる際に情報交換をしている。また、サービス提供に対して困った時は担当者へ相談して助言を得ている。また、介護相談員の受け入れをしている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	年1回の家族交流会や面会時に意見交換をしている。また、玄関にイベントなどを告知する掲示板を掲げ家族とのコミュニケーションの機会や話題作りに努めている。職員は担当制となっており、利用者へのコミュニケーション方法を工夫し意向の抽出を行いサービスに反映できるよう取り組んでいる。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。